

くない。(宮古島久松地先のアジモ場では平均50~60個体/m² 琉球水研64-65年事業報告)。

冬期には、シラヒゲウニやタツナミガイが数多くみられるようになる。

アジモの葉上性動物として、昭和47年9月から直径1cm大のオヨギソギンチャクが無数に着生していて、翌年2月以降にはみられなくなった。このアジモ帯は(+)30~(+)50cmのレベルにあつて、水深10cm内外の一面のタイドプールになっている。

またアジモ帯の中には、面積およそ600m²、水深3m、碗状のタイドプールがあつて、その周縁部にはハネジナマコが多く生息している。

砂礫帯：アジモ帯から boat channel に至る部分で、点在している小島や大礫が多いので、小形の巻貝類が多くみられる。ハナビラダカラガイやキイロダカラなどである。クロチョウガイの生息も確認されていることから内湾度が低いと考えられる。

サンゴ帯：boat channel から礁湖をとおして礁原に至る一帯である。boat channel にはハマサンゴが多く、礁湖から礁原にはエダミドリイシ類が多い。ナマコ類ではジャンメナマコやアカミシキリが多く、ヒトデ類ではオニヒトデやマンジュウヒトデが散見される。シラヒゲウニはもっとも多い。

エダサンゴの類はほとんどへい死していて、その主因はオニヒトデによる食害であると言われている(山里 1970)。

4 顕花植物と海藻

本海域には表-5に示すように、52種の海藻類と6種の海草が生育している。

1) 海草の種類と季節的消長

表-5 屋嘉田潟原の水生顕花植物と海藻の分布

種名	和名	8~10月			12~2月		
		砂質地帯	藻場	礁湖	砂質地帯	藻場	礁湖
<i>Thalassia hemprichii</i>	リュウキュウスガモ		+	+		+	+
<i>Cymodocea rotundata</i>	ベニアマモ	±	+	+	±	+	+
<i>Halodule uninervis</i>	ウミジグサ			±			±
<i>H. pinifolia</i>	マツバウミジグサ	+	+	+	+	+	+
<i>Zostera japonica</i>	コアマモ			±			±
<i>Holophila ovalis</i>	ウミヒルモ		±	+		±	+
<i>Monostroma nitidum</i>	ヒトエグサ	±			+		
<i>Ulva</i> sp.	アオサ	+			+		
<i>Enteromorpha compressa</i>	ヒラアオノリ	+			+		
<i>E.</i> sp.	ボウアオノリの一様	+			+		
<i>Valonia utricularis</i>	バロニヤ		+	±		+	±
<i>V. aegagropira</i>	タマゴマロニヤ		+	±		+	±
<i>Dictyosphaeria cavernosa</i>	キツコウグサ		+	±		+	±
<i>Bornetella ovalis</i>	ミズタマ	+	+	+	+	+	+
<i>Cymopolia van bossei</i>	ウスガサネ		±	+		±	+

種名	和名	8~10月			12~2月		
		砂質 地帯	深 場	礁 湖	砂質 地帯	深 場	礁 湖
Acetabularia ryukyuensis	カサノリ	+	±	±	+	+	±
Halicorvne wrightii	イソスギナ	+	±	+	±	±	+
Neomeris annulata	フデノホ	+	±	±	+	±	±
Caulerpa cupressoides	ビャクシンズタ	±			±		
C. racemosa	センナリズタ			±			±
C. serrulata	ヨレツダ	±		+	±		+
C. sertularioides	タカノハズタ				±		
Chlorodesmis comosa	マユハキモ		±	+		±	+
Udotea javensis	ハゴロモ		+	+		+	+
U. orientalis	テングノハウチワ			+			+
Cladophoropsis zollingeri	ミドリゲ		+			+	
Boodlea coacta	アオモグサ		+	±		+	+
Halimeda cureata	ウチワサボテングサ			+			+
H. opuntia	サボテングサ			+			+
Codim intricatum	モツレミル		±	±		±	±
Dictyosphaeria cavernosa	キツコウグサ	±	+		±	+	
Cladophoropsis sp.	キツネノオ		±	+		±	+
Padina minor	ウスユキウチワ	+	±	+	+	±	±
Hydroclathrus clathratus	カゴメノリ					+	
Cladosiphon okamuranus	オキナワモズク					+	+
Scytosiphon lomentaria	カヤモノリ						+
Endarachne binghamiae	ハバノリ						+
Turbinaia oranata	ラッパモク			+			
Colopmenia sinuosa	フクロノリ			+			+
Sargassum sp.							
Dictyota dichotoma	アミジグサ					+	+
D. linearis	イトアミジ	±			±		
Ectocarpus sp.	シオミドロの一種	±		±	+		+
Tolypocladia glomerulata	イトクズグサ	±	+		+	+	±
Gracilaria blodgettii	クビレオゴノリ	+			+		
Hypnea charoides	イバラノリ	+	+		+	+	+
Ceramium tenerrimum	ケイギス			+			+
Actinotrichia fragilis	ソデガラミ			±		+	+
Ceratodictyon spongiosum	カイメンソウ		±	+		+	+
Liagora farinosa	ケコナハダ			+			+
L. caenomyce	ハイコナハダ	+			+		
Acanthophora orientalis	トゲノリ	+	+		±	+	
Bostrycha tenella	コケモドキ	+		+	+		+
Gelidium pusillum	ハイテングサ	+		+	+		+
Gelidiella acerosa	シマテングサ	+		+	+		+

種名	和名	8～10月			12～2月		
		砂質地帯	藻場	礁湖	砂質地帯	藻場	礁湖
<i>Galaxaura fastigiata</i>	ガラガラ			+			+
<i>Digenea simplex</i>	マクリ (海人藻)			+			+
<i>Jania decussato-dichotoma</i>	ヒメモサズキ			±			±

± 僅かに生育する + 普通にみられる ++ 大型群落として生育

リュウキュウスガモ, ベニアマモ, ウミジグサ, マツバウミジグサ, コアマモおよびウミヒルモが生育しているが, その中で大きな群落を形成しているのはリュウキュウアマモ～ベニアマモとマツバウミジグサである。前者の群落は海岸から約500～800mのところ帯状に分布し, 後者の群落はそれより内側の海域に形成されている。それぞれの群落の大きさは $17 \times 10^4 \text{ m}^2$ 及び $28 \times 10^4 \text{ m}^2$ である。

夏期の繁茂期における全草体重量は多い方でおよそ 4 kg/m^2 (湿重量) であり, 冬期には $\frac{1}{2}$ に減ずる。

リュウキュウアマモ～ベニアマモ群落についてその落葉の状況を見ると, 11～12月にかけて外側の葉から枯れ, 草体を離れる。その結果, 北風の吹出しとともに海岸線に流出枯葉が堆積する状態がみられる。しかし, 草体が完全に消失するのではないことは前述のとおりである。

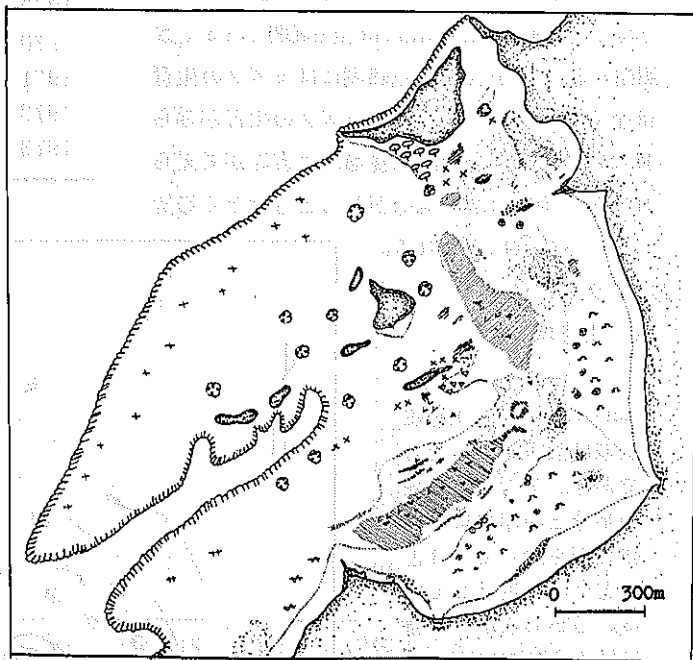


図-5 墨嘉田湾の主な海藻および海藻の種類と分布

- | | | |
|-------------------|-----------|-----------|
| ■ リュウキュウスガモ・ベニアマモ | レレ アオモグサ | ハハ 砂 礁 |
| ▲ マツバウミジグサ | ○ ○ カサノリ | ⊕ ⊕ サンゴ |
| △△ カゴメノリ | ▽▽ アオサ | ♀ ♀ サンゴ岩板 |
| ×× カイメンソウ | ▽▽ イトクズグサ | ○ ○ 砂 |
| ++ ラップモク | ++ シオグサ | |
| ササ ホンダワラ類 | | |
| ⊕ ⊕ イソシギナ | | |

2) 顕花植物に着生する海藻の種類とその消長

これらの種類にはイトクズグサ, アオモグサ, およびカゴメノリがみられた。イトクズグサは夏期における優占種となり, 11月から12月にかけてはアオモグサが多くみられる。12月からカゴメノリが次第に多くなってきて, 2月まで続いている。